

# 平成24年産 大豆栽培こよみ

あおば農業協同組合  
各地区農業技術者協議会

※肥料・農薬名は農協の推奨品目です

～農業者戸別所得補償制度で所得アップ!! 収量・品質を高め契約数量を、達成しよう!!～

1. 播種前から収穫まで排水対策を徹底
2. 石灰質資材と堆肥等の施用で土づくり
3. 栽植本数14,000～16,000本/10aの確保
4. 晴れ間を逃さず2回培土を実施
5. 病害虫防除の徹底
6. 開花後10～40日間の水分不足時は畦間かん水
7. 子実水分22%を切ったら刈取り開始

目標単収 250kg/10a以上  
3等以上を60%以上に

**目目の交換**



**スプロケットの調整**



**培土のやり方**



**第2回目**



**病害虫防除はおくれけない**



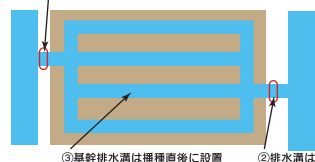
**刈取り適期**



月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月			
旬別		下	上	中	下	上	中	下	上	中
主な作業	土づくり 暴幹排水	播種 施肥 耕起 整地	出芽・苗立 欠株の追いまき 補植	2～3葉期 4～5葉期 培土(第1回) 培土(第2回)	開花始め 着莢始め ウコンシカ防除	莢伸長期 暴芽防除(1回目) 続いたら晴かん水 開花以降晴天が	子実肥大期 暴芽防除(2回目) 暴芽防除(3回目)	黄熟期 落葉・成熟期 収穫 乾燥調整	黄熟期 落葉・成熟期 収穫 乾燥調整	黄熟期 落葉・成熟期 収穫 乾燥調整

## 1. 排水対策の徹底

- 4月中のは場が乾いている時に額縁排水溝を掘る
- 排水不良田は、積極的に心土破砕を実施する
- 播種時、培土時にできた溝は、基幹排水溝に繋ぐ  
①水口はしっかり止める



サブソイラーによる心土破砕

③基幹排水溝は播種直後に設置 ②排水溝は低く掘り下げる

## 2. 土づくり

- pHを高めるため、石灰質資材を必ず散布する (10a当たり)

土改資材	一般田		赤土客土田
	苦土石灰	100～200kg	—
粒状ようりん	—	20～40kg	

- 有機物で地力の向上

### 堆肥等の10アール当り施用量の目安

牛ふん・豚ふん、糞から堆肥 1～2t  
発酵鶏糞 → 100～200kg

### 緑肥作物のすき込み(5月中旬)

エンバク: 3月下旬播種(播種量6～8kg/10a)  
ヘアリーベッチ: 前年秋播種(播種量4kg/10a)

## 3. 種子消毒

- 堆肥等有機物を施用した場合は、タネバエ防除のため、クルーザー処理をする

薬剤名	対象病虫害	処理方法
クルーザー-MAXX	アブラムシ類、タネバエ ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ 茎疫病、リゾクトニア根腐病 苗立枯病(ビシウム菌)、紫斑病	乾燥種子5kgあたり 原液40ml塗布処理*

\*クルーザー → キヒゲンの順に塗布

## 4. 耕起～播種

- 5月25日以降のは場の乾いている日に播種する
- 播種時期や品種に応じてスプロケットと目目を交換する
- 耕起、施肥、播種、除草までの作業は一日で終える

(耕起) 砕土率(2cm以下の土壌)60%以上を目安に起こす

(施肥(側条)) (10a当たり)

資材名	一般田	赤土客土田	麦跡
基肥 BB088	20kg	30kg	40kg

※全層施肥の場合は、窒素成分で2割程度増やす

- (播種) ○3cmの播種深度と栽植本数の確保に努める

播種時期別の目標栽植本数の目安 (10a当たり)

品種	播種時期	栽植密度	条間	株間	播種量(大粒換算)
エンレイ	5月25日～6月上旬	14,000本	80cm	16cm	5.0kg
	6月中旬	16,000本		14cm	6.0kg
オオツル	6月上旬	10,000～12,000本	80cm	19～22cm	4.5～5.0kg

※大豆の連作はやめましょう  
(雑草・虫害が増え地力が低下)

## 5. 雑草防除対策

雑草防除は、培土が基本! 晴れ間を逃さず、2回実施!

- 〈播種直後〉
- 播種、覆土後、土に湿り気があるうちに散布する
- 砕土率を高め、均一に散布する
- 〈生育期間中〉
- 発生雑草に応じた薬剤を使用し、まき遅れない
- 大豆に薬害が出る場合もあるので、使用上の注意をよく読んで使用する。(10a当たり)

	薬剤名	使用量	散布液量	適用雑草
播種直後	ラクサー粒剤	4～6kg	—	畑地1年生雑草
	ラクサー乳剤	400～600ml	100ℓ	
生育期間中	ポルトフロアブル	200～300ml	100ℓ	1年生イネ科雑草
	大豆バサグラン液剤	100～150ml	100ℓ	1年生広葉雑草
		300～500ml		大豆の生育期
	ロロックス(水和剤)	100～200g	70～150ℓ	畑地1年生雑草

※大豆バサグラン、ロロックスは、吊り下げノズルを使用する



大型雑草は、早めに取り除きましょう

## 6. 畦間かん水

- 開花後10～40日間の水分不足時は、畦間かん水を実施する
- 水が行き渡ったら、速やかに排水する



水不足の大豆葉

## 7. 病害虫防除対策

- 発生している病害虫を見極め、適期に防除する

防除時期	対象病虫害	農薬名	
		粉剤	液剤
基本防除	播種時 (クルーザー使用の場合は不要) フタスジヒメハムシ アブラムシ類	ダイシストン粒剤 4kg/10a	
		1回目 8月上中旬	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ
2回目 8月中下旬	紫斑病 カメムシ類	マネーシトレボン粉剤DL 4kg/10a	マネーシトレボンフロアブル(1000倍) 150ℓ/10a
随時	7月下旬～8月上旬	ウコンメイガ(ハマキムシ)	サイアノックス粉剤 4kg/10a(収穫7日前まで)
	8月下旬～9月上旬	フタスジヒメハムシ(カメシクイガ) アブラムシ類 マメシクイガ	ダントツH粉剤DL 4kg/10a(収穫7日前まで) ダントツフロアブル(2500倍) 150ℓ/10a(収穫7日前まで)
	8月下旬～9月中旬	ハスモンヨトウ カメムシ類	トレボン粉剤DL 4kg/10a(収穫14日前まで) トレボン乳剤(1000倍) 150ℓ/10a(収穫14日前まで)

※混合剤も含めた総使用回数は、トレボンが2回まで、スミチオンが4回まで

## 8. 刈取り

### 大豆専用コンバインの使用上の留意点

- 青立ち株や大きな雑草は、抜き取っておく
- 子実水分が22%になったら刈取り開始
- 刈取高さは地際から10cm程度とし、土を掻き込まない
- 刈取作業は莢の乾きを確認し、原則午前10時～午後4時までに行う
- 莢や茎が湿っている場合は作業しない

汚損粒は絶対に出さない  
※土や草汁が汚損粒の一番の原因です



食の安全は栽培記録とGAPの確実な実践から 作業の後は忘れず正確に記録しましょう!